

## 佐賀県 玄海圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は、7つの離島を含む2市1町（唐津市、伊万里市、玄海町）から成り、その沿岸はリアス式海岸となっている。海岸総延長は259kmで、唐津湾、仮屋湾、伊万里湾、名護屋浦、外津浦など、多くの内湾や入り江が形成されており、岩礁海岸が続く中に砂浜が点在している。底質は泥、砂、岩礁など多岐に渡っている。対馬暖流の影響下にあり、多様な漁場条件のもと、釣り、延縄、小型底びき網(エビ漕ぎ網)、船びき網(吾智網)、イカ釣り、定置網、採貝など様々な漁業が営まれているとともに、内湾域では、クルマエビ、魚類、真珠、カキ等の養殖も行われている。

本圏域では、圏域内1漁協体制を目指した合併への取組が検討されているが、これまでのところ、平成24年4月に圏域内13漁協のうち、8漁協の合併を果たし、現在の本圏域内漁協数は6漁協となっている。

組合名	組合員数		
	正	准	計
佐賀玄海	470	324	794
屋形石	27	46	73
小川島	56	36	92
外津	28	25	53
仮屋	30	34	64
大浦浜	27	13	40
計	638	478	1,116

令和2年度実績

##### 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

漁場は、対馬暖流の影響下にある壱岐水道の外洋性漁場と、唐津湾や伊万里湾等の内湾性漁場があり、生産対象水族も多種にわたっている。主な漁業としては、タイ、ブリ等対象の釣り・延縄をはじめ、小型底曳網、船曳網、イカ釣り、定置網等がある。内湾性漁場では、唐津湾でクルマエビ、魚類等、仮屋湾・伊万里湾で真珠、魚類、クルマエビ等の養殖が行われている。

令和元年の海面漁業生産量は 3,006 トンであり、前年の 3,226 トンと比べ、220 トンの減となっている。また、10 年前 (H21) の 10,159 トン比べると、7,153 トンの減少となっている (全体的に減少)。

一方、海面養殖業の生産量は 1,613 トンとなっており、前年の 1,566 トンと比べ、47 トン増加しており、10 年前 (H21) の 1,579 トンと比べると 13 トン減少している (増減があるものの H20 以降横ばい傾向)。

当圏域で利用している資源は、基本的に東シナ海系群の資源を利用しているとされていることから、国の資源評価調査の結果 (令和 2 年度) から抜粋すると、当圏域の主力であるマアジの資源量は中位増加、ケンサキイカは低位減少となっている。

また、資源管理型漁業については、本圏域全体を対象とするマダイ、ヒラメ及びアオリイカの資源管理計画とともに、5 地区におけるアワビの資源管理計画を策定し、平成 17 年 4 月には、トラフグ延縄漁業を対象とする「九州・山口北西海域トラフグ資源回復計画」を策定することにより、取組が実践されている。

なお、平成 24 年 4 月からは、広域資源管理方針に移行することにより、引き続き上記内容について取組を行っているところである。

#### 水産物の流通・加工の状況

現在、本漁業圏域内には 3 つの産地市場 (唐津魚市場、玄海漁協魚市場、高串魚市場) があるとともに、唐津市内には、加工団地が設置されている。

また、県内の市場統合については、本漁業圏域内にある 3 つの産地市場のうち、玄海漁協魚市場および高串魚市場の 2 つを、令和 3 年度を目途に機能統合する方向で検討している。

#### 養殖業の状況

玄海沿岸域の唐津湾・名護屋浦・仮屋湾及び伊万里湾等では魚類養殖、ウニ・アワビ養殖、真珠養殖、クルマエビ養殖がおこなわれている。

#### 漁業経営体、漁業就業者 (組合員等) の状況

平成 30 年の漁業経営体数は 657 経営体 (海面漁業 : 586、海面養殖業 : 71) となっており、平成 25 年の 793 経営体 (海面漁業 : 730、海面養殖業 : 63) に比べ 136 経営体減少し、10 年前 (H20) の 905 経営体 (海面漁業 : 835、海面養殖業 : 70) と比べても減少傾向にある (漁業センサスより)。

厳しい労働環境といった漁業を取り巻く状況の変化により、漁業後継者が育たず、平成 25 年には 1,244 名であった就業者数も、平成 30 年のセンサスでは 993

名と減少している。

#### 水産業の発展のための取組

本漁業圏域では、高齢化・後継者不足が深刻な状況となっており、漁業者の意識の変革と若手漁業者の育成が急務となっている。このため、平成 25 年 9 月に関係漁協、県で組織する「佐賀県漁業就業者支援協議会」が設立され、漁業の持続的発展のために必要な漁業を将来に渡って担う新規就業者の確保を推進している。

また、地域の水産業の核となる産地市場（玄海漁協魚市場、唐津魚市場）については、平成 24 年度に玄海漁協魚市場が、平成 28 年度に唐津魚市場が、それぞれ高度衛生管理型の市場として整備され、産地市場としての機能の強化に取り組んでいるところである。

#### 水産基盤整備に関する課題

圏域の沿岸の岩礁域（外海域）は、藻場面積が約 10 年前と同等の面積を維持するなど、現在は比較的良好な環境にあるが、今後、ウニ類等による食害の進行が懸念される。また、沿岸の砂泥域（内湾域）は、底質環境の悪化や餌料生物の減少等でカレイ等の底生魚介類の漁獲量が減少している。沖合域においても、アジ、サバ等の多獲性浮魚を中心に、全体の漁獲量は減少傾向にある。したがって、今後、沿岸岩礁域や内湾域、沖合域のそれぞれの現状に合せた漁場整備を実施し、玄海圏域全体の漁場生産力の向上を図る必要がある。

当沿岸は、潮位差が 3m 程度と大きく、干潮時における漁獲物の陸揚げや漁具等の積み下ろしに支障を来しており、また漁業者も高齢化していることから、漁業者の就労環境の改善を図る必要がある。

また、老朽化の進行が懸念される既存施設の有効活用という観点から、施設の長寿命化を図りつつ更新コストの平準化・縮減を図るため、水産物供給基盤機能保全事業を活用し、機能保全計画の策定や保全工事を順次進めていく必要がある。

#### 将来的な漁港機能の集約化

玄海圏域の小規模な漁港の多くは、主として背後集落に居住されている漁業者の出漁準備や休憩施設などとして使われており、製氷施設の利用や物揚げなどは他の漁港で行われるなど、機能分担は図られていると認識している。

(2) 圏域設定の考え方		
圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；唐津港において水産物を集約し、セリ等を行い、消費地や加工場へ出荷している。
圏域範囲	玄海地区一円	設定理由；唐津港への水産物の集約が及ぶ範囲であるため。
流通拠点漁港	なし	設定理由；当圏域の流通拠点の市場（玄海漁協魚市場）は、港湾区域に存在しているため。
生産拠点漁港	名護屋	設定理由；玄海圏域の漁港では圧倒的に多い陸揚量を誇り、防災拠点漁港として耐震強化岸壁も図られている。また他港の漁船の避難機能を有するなど、漁港機能も充実している。
輸出拠点漁港	なし	設定理由；なし

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(ト)	21,447	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,184
圏域の総漁港数	27	圏域内での輸出入取扱量(ト)	-
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	名護屋地域 設定理由；ブリの合計量・額が、生産量 500t 以上又は海面養殖業産出額 2.5 億円以上ある地域であるため。
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ブリ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(ト)	853
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	742

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

水産業の成長産業化に向け、産地における水産物の価格形成力の向上と生産・流通コストの縮減を図るための更なる拠点の機能強化が必要である。そこで、地域水産業の核である高串魚市場の機能を佐賀玄海漁協魚市場へと機能を統合することにより、機能強化を図ることとしている。

また、安全で安心な水産物の消費ニーズに応えるとともに、安全かつ効率的な漁業活動の推進に取り組む。

- ・流通拠点地区（唐津港）にあっては、衛生管理体制の充実。
- ・生産拠点地区にあっては、作業スペースの不足を解消し、生産性の向上を図ることとする。

現在の漁家経営および水産業の振興を図るため、まずは地産地消の推進・県内流通量の増加を目標として進めていくこととしており、輸出の促進については、県内基盤が整い次第検討を行うこととしている。

#### 養殖生産拠点の形成

名護屋地域のブリ養殖生産拠点は、唐津市の本土と離島（加部島）を結ぶ呼子大橋の西側海域に形成されている。波止場から船で数分もあれば養殖場にたどり着き、沖防波堤背後の静穏域のため波浪を気にすることなく管理ができる。また、名護屋地域は大消費地でもある福岡まで車で約1時間の立地にあること等から、出荷機能にも優れている。

種苗の安定供給という課題もあることから、まずは現在の養殖事業の商業価値を上げるため、導入種苗のサイズ、餌、飼育方法等総合的な技術力向上に取り組み、基盤の強化を図ることとしている。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### 環境変化に適応した漁場生産力の強化

佐賀県玄海地区の漁獲量、生産額は減少しており、加えて近年は海洋環境の変化が要因と考えられるケンサキイカの不漁や局所的な磯焼け、集中豪雨や台風などの激甚化による災害も発生していることから、持続可能な漁業生産を確保するため、環境変化に対応した漁場生産力の強化が必要である。

そのために、新たな資源管理の取組と連携し、水産物の生活史に配慮した広域的な水産環境の整備を推進することで、玄海海域の生産力の向上を図っていく。

また、現地機関等と連携して、環境変化の把握を目的としたモニタリング調査を定期的を実施し、その結果に応じた効果的な対応策を講じていく。

#### 災害リスクへの対応力強化

玄海圏域には、県内唯一の防災拠点漁港（名護屋漁港）があり、平成 12 年度に耐震強化岸壁が整備されている。

しかし、平成 28 年度の耐震耐津波機能診断において、現行基準の地震力や平成 27 年度に決定された津波の外力に対する安全性が確保されていないことが判明したことから、大規模災害時における安全確保のため、令和 3 年度より既存耐震強化岸壁の機能強化に取り組んでいる。

また、圏域内の多くの漁港では、建設から長期間が経過し、老朽化が進行している施設が多く存在するため、既存施設を有効活用し、施設の長寿命化を図りつつライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図るため、予防保全の考え方を取り入れた計画的な維持管理を実施していく。

### （３）「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### 「海業」による漁村の活性化

玄海圏域では、漁業者の減少や高齢化が進行し、漁村においては以前の賑わい、活力が失われつつある。そのため、各浜において浜の活力再生プランが策定され、所得向上や漁業コストの削減、後継者対策などさまざまな取組が行われているが、漁港ストックを最大限に活用できるようにするため、漁業活動における安全性の向上や作業の効率化等に資する施設の整備を行う。

#### 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港・漁村における生産活動は、女性や若者から高齢者までの幅広い世代など多様な人材によって支えられており、安全で働きやすい環境と快適な生活環境の整備は、担い手確保にあたり重要な課題である。

その対応策として、老朽化した施設の補修による労働環境の改善を図り、また意欲ある漁家・地域リーダーの育成及び男女共同参画を推進することとしている。

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・高串魚市場の機能を佐賀玄海漁協魚市場へと機能を統合し、流通機能の強化を図る。
- ・玄海地区水産物の販売先として大きなポテンシャルを持つ佐賀地区におけるシェアの拡大を目指すため、需要拡大策を講じ、流通機能の強化を行う。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
-	-	-	-	-	-

##### 養殖生産拠点の形成

- ・県研究機関（玄海水産振興センター）の観測データを活用し、漁場環境保全を強く意識した飼育の取り組みや赤潮発生時の迅速な把握・対応可能な体制を整備する。

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
-	-	-	-	-	-

#### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

##### 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・玄海北部地区において、餌料生物の増殖機能を持つ増殖礁を設置し、環境変化に対応した魚種も含め、玄海の漁場生産力の強化を図る。

地区名	主要対策	事業名
玄海北部	環境変化	水産環境

- ・海洋環境の変化への対応（海域環境モニタリング・情報共有体制の強化、研究機関との連携体制の構築、調査・実証の強化）を図る。

災害リスクへの対応力強化

- ・防災拠点漁港(名護屋漁港)において、大規模災害時における安全確保のため、既存耐震強化岸壁の耐震耐津波機能強化を図る。
- ・老朽化が進行している施設が多く存在するため、既存施設を有効活用し、施設の長寿命化を図りつつライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図るため、予防保全の考え方を取り入れた計画的な維持管理を実施に取り組んでいく。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
佐賀県本土	耐震化	機能強化	名護屋	2	-
佐賀県本土	予防保全	機能保全	高串 漁港他	2種 3種	-
唐津市本土	予防保全	機能保全	湊浜 漁港他	1種 2種	-
唐津市離島	予防保全	地方創生 港整備交 付金 機能保全	神集島 漁港他	1種 2種	-

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

「海業」による漁村の活性化

- ・漁村の活力が失われつつあることから、漁港ストックを最大限に活用できるようにするため、遊休化している漁業用地、水域について地域の活性化につながる地域振興の検討を進めていく。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
-	-	-	-	-	-

地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・老朽化の著しい既存施設の補修により漁港機能の維持とともに安定的生産、生産コストの削減、労働力軽減等を図って行く整備に取り組んでいく。
- ・意欲ある漁家や地域リーダーの育成及び男女共同参画の推進を促すため、漁家の女性がこれらを目的として参画する各種研修会等の費用を支援する。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
-	-	-	-	-	-

#### 4 . 環境への配慮事項

- ・本漁業圏域では、ハード施策、ソフト施策ともに、漁場環境の改善等、環境負荷の軽減や資源の回復・増大に繋がるものを実施する。
- ・漁港漁場工事において、海域の自然環境や水生生物の生息環境に影響を及ぼす恐れのある工事を実施する場合は、施工環境監理者配置要領等を参考に適切な対策を講じる。

#### 5 . 水産物流通圏域図

別添 1 のとおり

# 佐賀県 玄海圏域 水産物流通圏域図

別添1

玄海圏域においては、  
集出荷及び準備機能以外の機能は現状として連携をしていない。  
連携範囲に組み込まれていない独立型漁港は、各々単独で施設を  
持っているか内地（漁港区域外）にある近隣の施設を利用しており、  
また、漁獲物は各々の漁港から直接出荷されている。

流通拠点（一般）型  
流通拠点：唐津港（重要港湾）  
圏域総陸揚量：21,446 t  
圏域総陸揚金額：70億円  
(R1港勢調査+唐津港水揚データ)



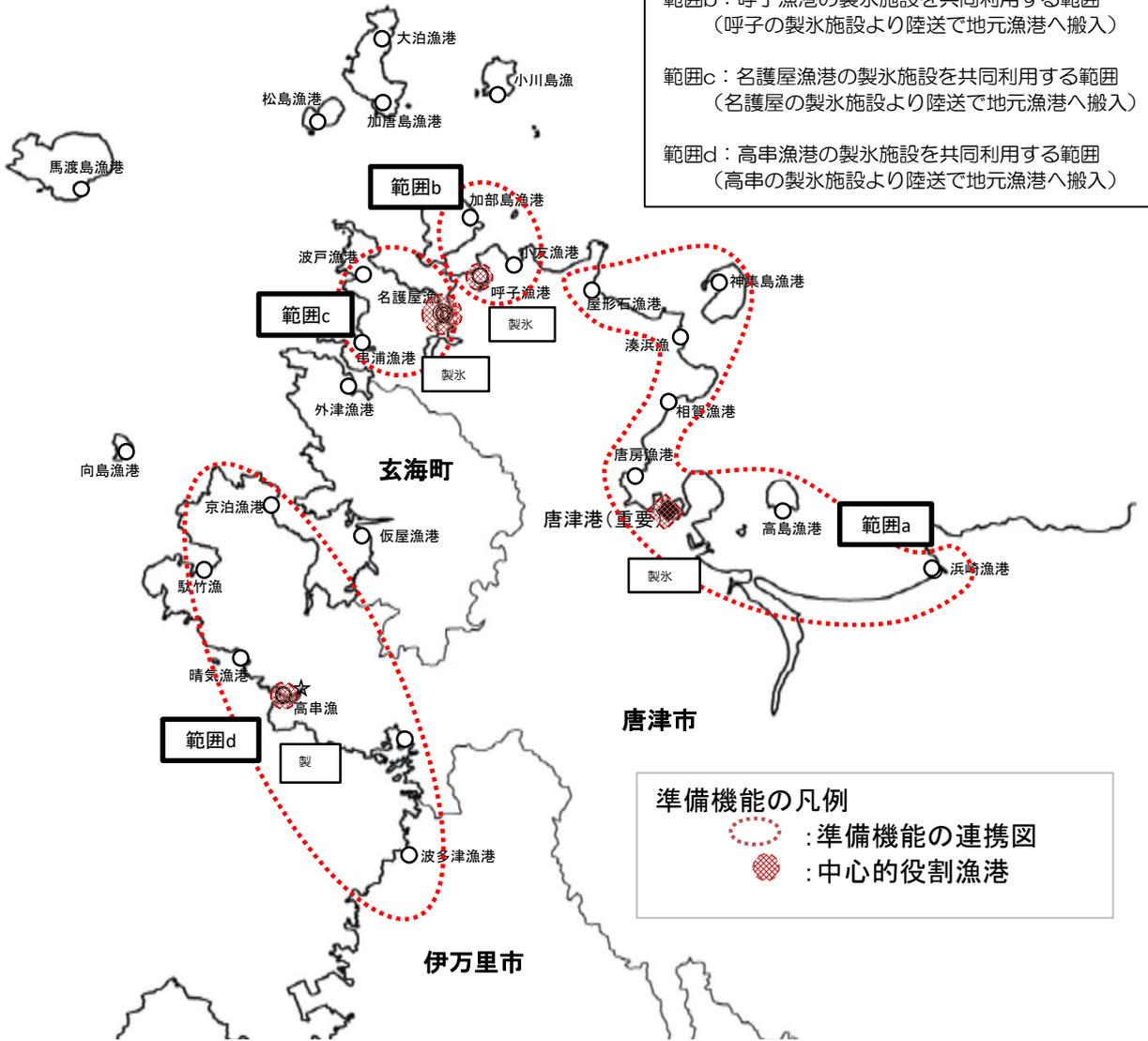
- 【機能・役割分担及び連携範囲に係る凡例】
- ⋯ : 集・出荷機能の連携範囲
  - ⋯ : 準備機能の連携範囲
  - ⋯ : 増養殖・畜養強化機能の連携範囲
  - ⋯ : 交流・観光・6次産業機能の連携範囲
  - ⋯ : 防災・減災機能の連携範囲
- 
- : 集・出荷機能の中心的役割漁港
  - : 準備機能の中心的役割漁港
  - : 増養殖・畜養強化機能の中心的役割漁港
  - : 交流・観光・6次産業機能の中心的役割漁港
  - : 防災・減災機能の中心的役割漁港

# 佐賀県 玄海圏域 役割・機能配置図

別添1

流通拠点（一般）型  
 圏域総陸揚量：21,446 t  
 圏域総陸揚金額：70億円  
 （R1港勢調査+唐津港水揚デー

範囲a：唐津港の産地市場へ水揚げした際、製氷施設を利用する範囲  
 範囲b：呼子漁港の製氷施設を共同利用する範囲  
 （呼子の製氷施設より陸送で地元漁港へ搬入）  
 範囲c：名護屋漁港の製氷施設を共同利用する範囲  
 （名護屋の製氷施設より陸送で地元漁港へ搬入）  
 範囲d：高串漁港の製氷施設を共同利用する範囲  
 （高串の製氷施設より陸送で地元漁港へ搬入）



準備機能の凡例  
 ○ : 準備機能の連携図  
 ⊞ : 中心的役割漁港

